

⑩東海寺 大山墓地 品川区北品川4-11-8

大山墓地には以下の人々の墓がある。沢庵和尚・賀茂真淵(国学者)・井上勝(鉄道の父)・渋川春海(江戸の天文学者)・西村勝三(近代工業の父)・六閑斎泰曳宗安(裏千家第6世)・本居内遠(国学者)・服部南郭(儒学者)。また、島倉千代子(演歌歌手)の墓がある。



沢庵和尚の墓地

⑨近代硝子工業発祥の碑

品川区北品川4-11-5

日本で最初の西洋式硝子工場。日本の近代工業の発祥の地。

1873年(明治6年)、東海寺境内に日本初の近代ガラス工場、興業社が設立。3年後に明治政府に買収され、工部省の官営工場となった。外国人技師を招いて食器や日用ガラス器製造の技術を伝えた。



⑧日本ペイント明治記念館

品川区南品川4-1-15

日本ペイント株式会社・品川工場の一角にある赤レンガの建物。1909年(明治42年)に建てられた当時の工場が一般に公開されている。明治時代のペンキ製造に用いられた機械類を展示。団体見学には事前の予約が必要。



歴史をたどる 目黒川沿いの



目黒川沿いの桜並木～3月下旬頃

History of the
Meguro River

天王洲アイル～大崎

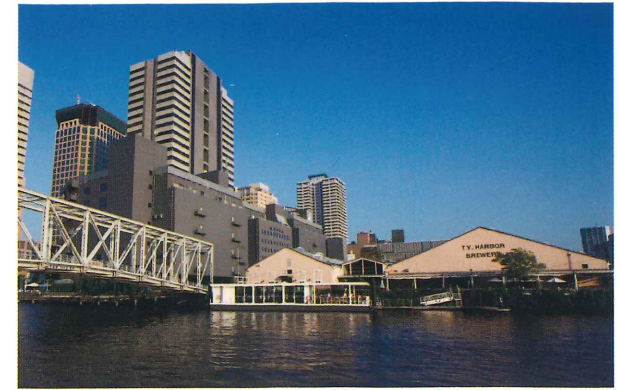
一般社団法人 しながわ観光協会
SHINAGAWA TOURISM ASSOCIATION

☎03-5743-7642 2018年10月発行
<https://shinagawa-kanko.or.jp/>
〒140-0014 品川区大井1-14-1 大井1丁目共同ビル1F
【営業時間】午前9時30分～午後5時 【休館日】祝日・年末年始



目黒川とは

目黒川の河口付近は古くは「品川」といい、これが「品川」の起こりとされている。江戸時代には、その上流の下目黒付近では「こりと川」と呼ばれ、「こりと」は「垢離取り」の意味で、この川で身を清めてから目黒不動尊に詣でたことから名付けられたとされている。



①天王洲エリア

江戸時代前期まで、このあたりは「洲崎」と呼ばれ、海中の土砂が堆積してできた「洲」であった。また、1751年(宝暦元年)に船人が牛頭天王(ごすてんのう)の面をこの海域から引き上げたことから、「天王洲」の地名の由来となっている。

③寄木神社 品川区東品川1-35-8

江戸時代には寄木明神社と呼ばれた、狛師町の鎮守。拝殿は木造であるが本殿は蔵造りで、祭神は日本武尊(やまとたけるのみこと)。本殿内側の2枚の扉に名工・伊豆長八の手による漆喰鏝(こて)絵が描かれている。



⑤荏原神社 品川区北品川2-30-28

東品川と南品川宿の鎮守で、北の天王様と呼ばれる品川神社に対して、南の天王様と呼ばれる。現在の社殿は、文政の大火後1844年(弘化元年)に竣工。6月に行われる「かっぱ祭り」といわれる神輿の海中渡御は、全国的に有名。



⑫大崎駅周辺

大崎は目黒川を望む高台であり、室町時代には、品川宿から多摩地域へつながる街道へのアクセスポイントとして、目黒川に居木橋がかげられた。近年は大崎駅東口地区の再開発によって、東京副都心の1つとして脚光を浴びるようになった。



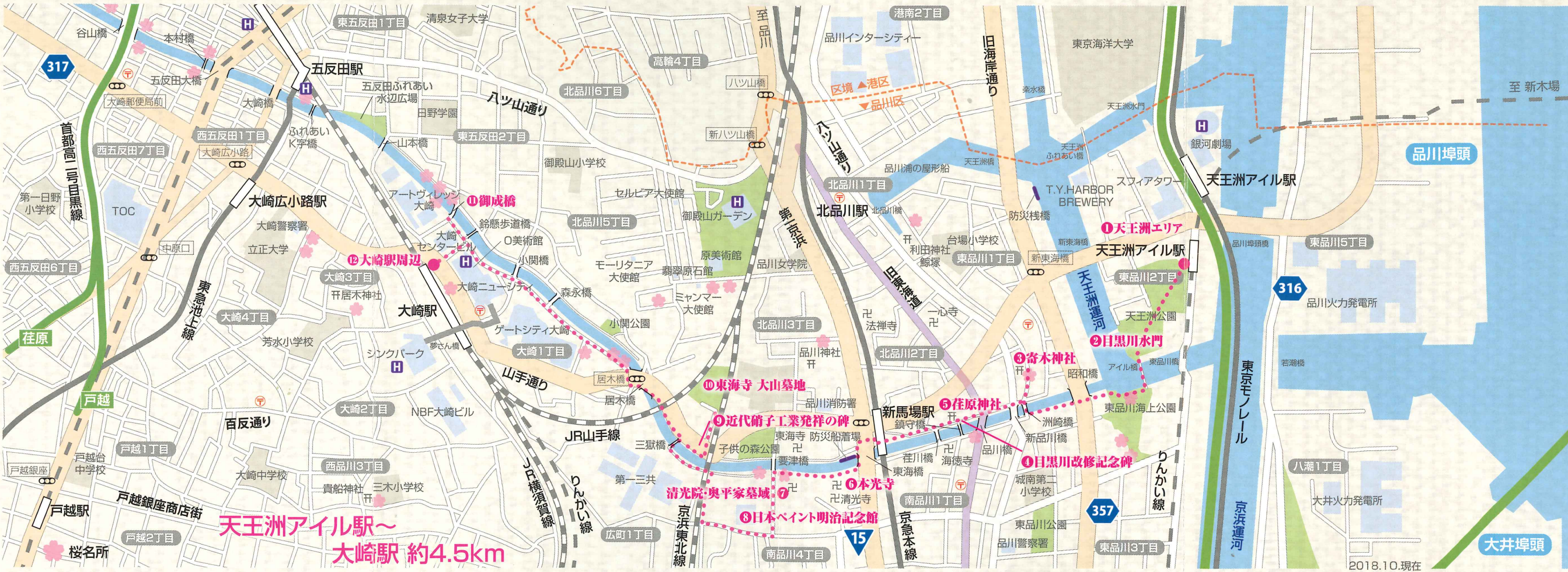
⑩御成橋

江戸時代、将軍(主に徳川家光)が鷹狩りにきた時(将軍の御成り)、居木橋村の名主がここまで出迎えに来たといわれている。御鷹野橋とも呼ばれていた。



⑨目黒川水門

目黒川河口に接続する天王洲運河に設置された水門。高潮や津波に備えた防潮水門で、通常は開いているが、台風などで高潮の危険がある時や地震の発生時にただちに閉鎖され、水害の発生を防ぐ。水門に描かれている図柄は、一般公募により選ばれ、表には「しながわ鯨」、裏側には「海のともしち」という作品が描かれ、2008年に完成した。



⑦清光院・奥平家墓域

品川区南品川4-2-35

もとは東海寺の塔頭のひとつだったが、明治維新以後独立。江戸時代初期の1650年(慶安3年)に、肥後国宇土藩(熊本藩支藩)の藩主、細川行孝が母を開基として建立したと伝えられる。瓦積の土塀に囲まれた598㎡の奥平家墓域は、都内の大名墓域としては有数の広さ。1614年(慶長19年)に没した二代からの墓石88基がある。奥平家は徳川家譜代大名で、中津(大分県)藩主であった。



⑥本光寺

品川区南品川4-2-8

室町時代の1382年(永徳2年)に、日蓮宗日什門派の派祖である日什(たっけい)が創建。以後、各時代の支配者や豪商らの庇護を受け、江戸時代には天妙国寺、浅草の慶印寺とともに、江戸の日蓮宗日什門派を統括する「江戸触頭(ふれがしら)三ヶ寺」となる。3代将軍徳川家光がこの寺を訪れ、芝・増上寺(港区)の住職・意伝と、この寺の住職・日啓が、東海寺の沢庵和尚の立会いのもと、念仏無間の問答をしたと伝えられる。

④目黒川改修記念碑

目黒川は、大正時代まで川筋が蛇行していたため、溢水に悩まされていた。1923年(大正12年)から大改修工事が行われ、荏原神社付近で北西に大きく迂回していた流れを、南へ移し替え海に注ぐようにした。

